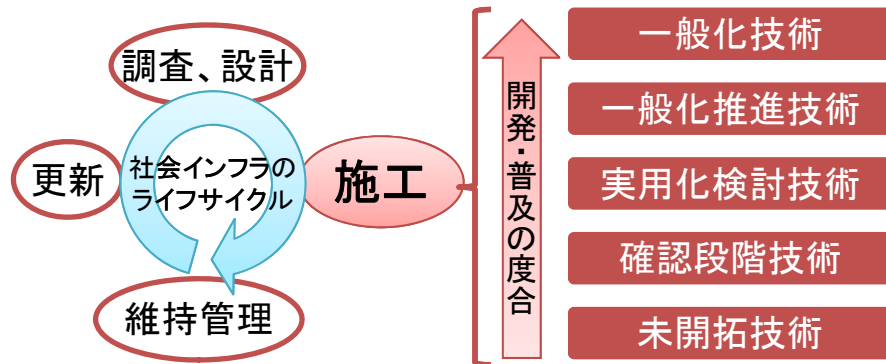


情報化施工推進戦略_施策全体概要

資料1



- 開発・普及状況に応じて、活用目標設定、使用原則化措置、要領整備、自治体への展開等を行う
- 施工のみならず、設計及び維持管理も含め、ライフサイクル全体を通じた効果向上を目指すため、データ流通の円滑化・ルール策定を行う。

各段階の主な目的	STEP1	STEP2	STEP3	STEP4	実施状況(活用率等)	
	研究・開発段階	実用化段階	一般化推進段階	一般化段階	現状	目標
対象技術	求めるテーマに対応できる技術の発見。適用条件と効果の検証。	良い技術を積極的に活用。技術の周知と普及を拡大。施工管理要領、監督・検査要領の整備。	情報化施工機器を効率的に扱う人材の育成 技術基準類や入札・契約制度の見直しに必要な根拠データの収集。 技術基準や入札・契約制度の見直しを検討。 地方公共団体への展開。		H25.9 末 時点	H25～29における段階的な目標 (※実施状況を踏まえ、毎年、見直し)
一般化技術	①TSを用いた出来形管理技術 (10,000m ³ 以上の土工)			技術基準や入札・契約制度の見直し検討 地方公共団体への展開	74%	H25 100% (使用原則化)
一般化推進技術	①TSを用いた出来形管理技術 (10,000m ³ 未満の土工)	締固め管理要領の策定 監督検査要領の策定	引き続き活用促進		64%	H25 60% →使用原則化検討
	②TS・GNSSを用いた締固め管理技術	締固め管理要領の策定 監督検査要領の策定	監督検査要領の策定・周知		12%	H25 15% →H26 30%,H27 60%
	③MC(モータグレーダ)技術		引き続き活用促進 (MCプルの活用)	面的な出来形管理基準の検討	57%	H25 60% →使用原則化検討
	④MC/MG(ブルドーザ)技術		引き続き活用促進	面的な撤出し厚さ管理の検討	6%	H25 15% →H26 30%,H27 60%
	⑤MG(バックホウ)技術		引き続き活用促進		5%	H25 15% →H26 30%,H27 60%
実用化検討技術	①TSを用いた出来形管理技術 (舗装工)	締固め管理要領の策定 監督検査要領の策定	実用性・汎用性の確認		42件	H25 5件/地整
その他新規技術	・MC路面切削、AS7インチャ、締固加速度応答、MCバックホウ等	新技術活用促進システムとの連携 建設技術開発助成制度との連携				

凡例: 実施済みの事項 (点線枠) 本戦略期間の項目 (矢印)

○各技術の開発・普及状況に応じた各重点目標及び各取組の位置付け

